

いっとうじゆく
一燈塾

— 「ラジオ一燈塾」開塾にあたり —

今から28年前の1995年2月から始まった「一燈塾」という勉強会があります。
この勉強会は私が40代になった頃に有志と共に、一つの道を極めてこられた、あるいは極めてつあられる方の生き様に学び、自らの人生の方向性を自己確認する目的で始めた会で、今年4月で117回を数える会となっています。
「一燈塾」の名称は、私の座右の銘である佐藤一斎の「言志四録（言志晩録）」十三条にある、

いっとう さ あんや
一燈を提げて暗夜に行く
あんや うれ なか
暗夜を憂うること勿れ
た いっとう
ただ一燈を頼め

からとったもので、

いっとう
「一燈」とは「志」

「志」を持って生きてゆくと、様々な試練や困難に遭遇し気持ちも沈み、お先真つ暗な人生行路に見える事も多い。しかし、暗い暗いと言って嘆かないで、一つの灯「一燈」（志）を頼りに、足元を確認しながら一步一步前へ進み続ければよいのだ

という意味で、自分の「志」を持ったら逆境の中でもぶれずに貫徹してゆく事の大切さを言った言葉です。
これまで「一燈塾」では「道」を極められた講師をお招きして1995年～2010年頃迄は新潟で、そして近年は東京での開催しながら続いてきました。
そして今年5月より形を変えて、ラジオNIKKEIで「ラジオ一燈塾」という番組で全国の多くの方々に、お招きしたゲストと私との対談を通して、その人の人生の足跡と生き様を学ぶ機会となる様、新たな形でスタートを切る事になりました。

昨今AIの進化はもはや人間の「知」の領域を超え自動的に進化、増殖してゆくところまできていて、これから誰もが予測出来ない程、人間社会の価値観や仕事のあり方を劇的に変えてしまうと言われています。
そうしたすさまじい社会のイノベーションの変化の中で、むしろより重要になるのが自分自身のぶれない生き様の確立にあると思います。
人はその根幹となる「人間力」においては、人と人との関わりによってのみ磨かれるもので、決してモノやツールによって磨かれるものではないと思います。
変化が早く激しい時代の中にあつてこそ、「暗夜の一燈」を持つ人達が増えてゆく事を願いつつ、「ラジオ一燈塾」を始めてゆきたいと思っております。

徳真会グループ
代表 松村 博史

